

第2回第11次静岡県職業能力開発計画検討委員会 委員発言要旨

【開催日時、場所：令和3年12月15日（水）13：30～15：30、県庁別館9階第2特別会議室】

第2回委員会において、各委員から計画（案）及び指標について次のとおり御意見をいただいた。

委員の主な御意見

委員名	発言内容
池上委員 (静岡文化芸術大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>リカレント</u>は大学等では、なじみのある言葉だが、一般ではあまり使われないので、「<u>学び直し</u>」の方が分かりやすい。 ・ <u>工科短期大学校の定員充足率向上には、イメージ戦略も大事</u>である。広報、ホームページも含めて、<u>学生の活躍する姿を見えるように</u>することはとても大事である。定時制高校に通う<u>定住外国人生徒には、ロールモデルの提示が大事</u>で、<u>技を身につけて働くことで安定した暮らしができるということを発信していく必要がある</u>。 ・ DXは目的ではなく手段なので、どんな未来を各企業が思い描くかが問われていると思う。ICT導入（業務のデジタル化）はそのための第一歩であり、それを目的とするだけでは大きな変革には至らない。
梶本委員 (ケイコーホールディング)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイズコロナ、アフターコロナの中で、デジタル化は益々進んでいくと思うが、従来大切にしてきた人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上は、デジタル化の進展に伴いお座成りにされて行く傾向がある様な気がする。<u>今後の教育は、デジタル化に伴う教育は勿論のこと、リアルなコミュニケーションの大切さも教育し、両方をバランス良くやっていかなければならない</u>。その基盤となるのは感性の力（五感から感じ取る力）で、是非、感性の力を高める教育も盛り込んでもらいたい。
町田委員 (連合静岡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工科短期大学校の指標で、定員充足率が一番初めにあるが、今のような<u>レベルをきちんと上げていくような教育がなされていけば、その後の卒業生の就職率も、技能検定の合格率も上がってくる</u>。<u>そういったものに定員充足率が伴ってくるのではないのか</u>と思うと、<u>定員充足率が一番下でも良い</u>と思う。
松村委員 (工業高校校長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業高校校長会でも、4月に<u>工科短期大学校の施設を見て、すばらしい施設と、少人数で密度の濃い学習をしている実態はわかっている</u>ので、<u>これから周知されていくのではないか</u>と思っている。 ・ <u>工科短期大学校の定員充足率向上には、イメージ戦略も大事</u>。実技の授業が多いため、訓練というイメージが強く、先生方が一方的に教え込むというようなイメージがあると思うので、<u>学生たちの主体的な活動をPRできると、より一層、魅力的なものに見える</u>と思う。
柳下委員 (工科短期大学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工科短期大学校では、総合実習という、高専でいうところの卒業研究に相当する科目があり、1人1テーマで、自分で計画して装置・システムを作り上げるという作業が進んでいる</u>。<u>自発的に自分で考えて作業を進める、そういったことも行っている</u>ので、是非、そういうところを宣伝していきたい。

委員名	発言内容
三輪委員 (日 管)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>更に勉強したいという人たちに、工科短期大学校、農林環境専門職大学、社会健康医学大学院大学は、大変良いコースだ</u>と思う。首都圏の大学に通えば、いろいろなコストを考えると恐らく600万円、800万円を消費してしまうところ、こういう施設があれば大変有り難いと思う。<u>是非成果を上げて、県民の評価を得てほしい。</u> ・ この計画案の冷静な経済的合理性に、私は99点を差し上げたいと思う。 ・ 山本委員の長年の念願であった、天竜高校に介護福祉科を設置しようということが、随分進んだように聞いている。この委員会関係者の長く粘り強い努力があったことを推察し、100点満点を差し上げようと思う。
山本委員 (天竜厚生会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉科をやってもらいたいというのは長年の夢だった。1番に思ったのは、地元にいる子たちが地元で安心して働ける。そういう子を地元で育てる環境を作らないとどんどん過疎化していく。もっと高校時代から、きちっとした夢を持てるものをつくれたら良いという思いがあった。 ・ 計画の概要を見て気になったのが、<u>ライフコースの多様化に対応した職業能力の開発</u>に関するところで、<u>小学校～高校とひとつになっているが、小・中学校と高校に分けた方がわかりやすい</u>のではないかと思う。<u>小・中学校の児童期は感性豊かに想像力がある子供たちを育て、高校で自分の職業観、将来のライフコース・キャリア、どういったものを積んでいくのかを見つめてもらうとよい。</u>
久保田委員 (職業教育振興会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>小学校～高校がひとつになっていることに違和感がある</u>。実業高校は職業教育を理解していて、職業をイメージして学んでいくことができているが、普通高校は、職業講話は必ずあるものの、進学の指導が主眼となっているため、<u>小・中学校でやってきたキャリア教育が、高校で途切れてしまうという感覚を持っている</u>。自分が何者なのかということを見つけて、たくさん職業を知っていく機会になるためには、先生方への情報提供や理解のボリュームを増やしていくべきなのかと感じている。 ・ 企業アンケート結果を見ると、需要としては、デジタル化に伴う従業員のITリテラシーの底上げと、次の時代を牽引するリーダーの育成の2つだと思う。在職者訓練、産学官連携、企業研修、工科短期大学校・浜松技術専門校の先生、皆さん含め、今のこととともに、<u>少し先を見たプログラム構築が本当に大切</u>だと感じる。研修をやっているということの認知もまだ少し足りていないので頑張ってもらいたいと思う。 ・ 私学での考え方では、<u>定員充足率だけを見てしまうと、全体が見えにくい。志願者数が大切</u>で、それが、どう受けてもらう人を増やして、認知を上げていくのかという、ブランディングにつながる指標となる。指標に、<u>志願者数を加えた方がよい</u>と思う。

委員名	発言内容
佐塚委員 (中小企業団体中央会)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化は「目的」ではなく「手段」である。これを進めるために<u>重要なのは現場のリーダーであり、「課題」を見抜ける力が求められる。</u> そうした中で、<u>デジタル化のベースとなる技能、技術の充実は大切で、こうした計画は支援機関として大変有り難い。</u> 工期短期大学の普及啓発PRに関して言えば、学生の姿を盛り込んだ動画配信など、デジタル技術を積極的に活用してPRする方法もある。 コロナ禍にあっても中小企業は慢性的な人手不足。従って、職業能力開発による人材育成は依然として重要施策である。
大瀧委員 (公立高校PTA連合会)	<ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学は普通高校では認知されていない。しかし、普通高校でも、定時制や、大学に進学しても中退してしまう方もいる。職人は最後は自分の力で稼げるという強みがある。普通高校の方は職人のすばらしさを知らない。<u>工科短期大学の紹介とともに、普通高校の生徒たちに、現場はこういうところで、こういう技術があってということ教える機会を取ってもらえれば、将来的に良いと思う。将来的な選択肢を広げるために、是非、普通高校にも、工科短期大学を紹介してほしい。</u> 小さい会社は、利益が出ていても、後継者がいないために廃業することが多い。そういった企業に後継者をマッチングしてもらえないかという思いがある。
佐野委員 (ジャトコ)	<ul style="list-style-type: none"> 会社の教育担当をしている。外国の加工機など、ちょっと今までは考えられないような<u>新しい技術がどんどん入ってきている。</u>少し世間を見ないと、あっという間にそういった技術が増えるので、<u>「技術革新に対応した」というところで、そういったものも取り入れてもらえば、今後の就職にもすごく助かるのではないかと思う。</u> コミュニケーション力というものがある、昨年度から当社も、人間力向上ということで監督者層にいろいろな人とコミュニケーションをとろうということ始めた。 近々の問題としては、やはり<u>高齢者、シニア世代がどんどん増えている。</u>生涯学習だけでなく、<u>定年後でも学べる機会を増やしてもらえば、さらに、道が広がってくると思う。</u>
望月委員 (職業能力開発協会)	<ul style="list-style-type: none"> <u>リカレント教育</u>に関して「産業界と連携して静岡ならではのモデルプログラムを構築する」という記述があるが、<u>この取り組みは、静岡県の潜在的な強み(ストロングポイント)を、顕在化することにつながるのではないかと期待している。</u> 第11次計画の施策を具現化していく、そしてそれぞれの指標・事業の目標達成に向けた取り組みをしていくのは、短期大学や技術専門校の職員、関係団体の職員など、現場の方々だと思う。是非現場の方々の声を尊重して、施策を展開していただきたいと思います。

委員名	発言内容
畑委員 (高障機構)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化、AI、ロボットといったものを導入することで企業が生産性を上げようとしている中で、<u>障害のある方の仕事は、比較的軽微で単純な作業が多く、そういう作業がAIやロボットにとって代わられてしまう。</u>そのような中、<u>障害者の方の雇用を守っていくための一つとして、出来る仕事の幅を広げることであり、そのためには障害者の職業訓練の役割が重要になってくる。</u> 指標の中で、<u>工科短期大学校・浜松技術専門校の技能検定2級合格率を80%</u>という数字を掲げているが、技能検定2級は、働いていない方が受けることができる最高の検定試験で、これを8割合格というのは<u>すごく目標が高い</u>と思った。全国平均では、8割合格はない。頑張ってください。
大石副委員長 (静岡経済研究所)	<ul style="list-style-type: none"> 第10次計画に続き、この計画も非常によくまとめられているので、これをどう具現化していくかというところだと思っている。 短期大学校基本計画では、<u>工科短期大学校は拠点としての位置付け</u>があった。単に<u>技術を学ぶだけではなくて、そこで技能に関する勉強したり、交流したりする場という位置付け</u>があったと思う。<u>ここを拠点に進めていってもらえれば</u>と思う。 いろいろな技能がデジタル化されて、<u>基礎を学んだうえで、今の時代のデジタル技術を身につけていく、そういうプログラムを考えなくてはいけない</u>。そうすると、1つの業務だけ、技能だけを学ぶのでは駄目で、コミュニケーションにより他の業務を知るなど、<u>総合力を学ぶというところも必要</u>だと思う。そういうプログラムが足りないと思う。 <u>この計画を企業の方々に知ってもらうことを進めていってもらいたい</u>。 <u>この計画をしっかりとフォローしていくことが大事</u>だと思う。これからどう行動していくか、そういう体制をつくってもらえればと思う。
松村委員 (工業高校校長会)	<ul style="list-style-type: none"> <u>厚生労働省の補助金のおかげで、高校生の技能検定3級の受検生が増えた</u>。本校だけで100人いた。全県でいうと、恐らく700、800という数の受検生がいたのだと思う。 <u>若年者ものづくり競技大会や全国の高中生ものづくり競技大会などで、県内の工業高校の生徒が入賞するなど、確実に成果は上がっている</u>。 <u>工科短期大学校には連携コースがあり</u>、この中で、更に上位の検定、スキルを目指すということもあり、そういったところも<u>成果であった</u>と思う。 工業高校への志願者は多くない一方で、求人倍率は高く、中小企業が採用したくてもできない現実がある。<u>技能労働者に対しての社会的な評価、位置付けが、なかなか高くない</u>。そこのギャップが如実に現れていると思うので、何かもう少し、その部分が解消できると良いと思っている。
矢野委員長 (ふじのくにづくり支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> <u>計画が、確かに進んでいるかどうかを、毎年度チェックする必要がある</u>。環境の変化はものすごいスピードで進んでいる。デジタル化も前から言われていたが、3年前はそれほどでもなかった。コロナの影響でいやおうなしに進んだ。こういった状況はこれからもある。<u>年1回、反省会を開き、場合によっては世の中に合わせて変えることも大事</u>。<u>世の中のニーズに合わせる委員会でありたい</u>と思っている。